

日本共産党

こんにちはは市会議員  
南畑さち代です

No.122  
2025年8月号  
連絡先  
453-7758

### 6月議会報告 一般質問

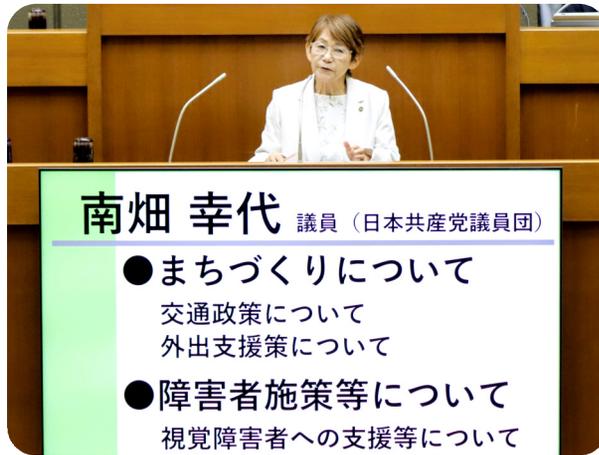
## 視覚障害者の日常生活用具 基準額引き上げを

物価高騰により視覚障害者の電磁調理器や拡大読書器などの日常生活用具が値上がりする可能性がります。市は基準額を決め、基準内であれば収入により負担額がゼロか1割負担となっています。

例えば拡大読書器の19万8千円です。この金額は約30年前に厚労省が決めた額です。国も県も基準額の見直しを後押ししている。「和歌山市も見直すべきだ」との質問に、市長は「基準



日本共産党和歌山市議員  
南畑 さち代



南畑 幸代 議員 (日本共産党議員団)  
●まちづくりについて  
交通政策について  
外出支援策について  
●障害者施策等について  
視覚障害者への支援等について

## 視覚障害者への 情報保障を

額の定期的な見直しは実勢価格の推移や他都市、当事者の意見も参考に総合的に判断していく」と答弁しました。

2年前から選挙の入場券、封筒の点字シールの添付が

突然なくなり、選挙に行かなかった方がありました。「市長として、市の送付している情報を漏らさず届けることの重要性の認識はどうか」との質問に、市長は「障害者に情報を発信する際には、それぞれの特性に応じた情報発信をすることで、今後も適切な情報保障に努めていきます」と答弁しました。

## 地域バス 未実施地域等 への対策を

バス路線が縮小・廃止される中、地域バスが本格運行に至らなかった地域等への対策が必要です。「デマンド型乗合タクシー運行や高齢者の外出支援策としてタクシー等への補助を拡充すべきではないか」との質問に、「デマンド型乗合タクシーは有効な手段の一つです」「外出支援事業の拡充は既存事業の実績を踏ま

え、より効果的な制度となるよう考える」と答弁しました。

### 森下議員の一般質問



議員 (日本共産党議員団)

## 真相解明は 市の責任

旧同和対策である地域子ども会が市の公金を不正に請求したことについて公益通報した職員が自死して今年(6月)25日で5年。当時、病休願いで内部告発したにもかかわらず幹部は放置したこと、病休の復活後不正な交付金を申請した子ども会会長による人権研修を強要されたこと、不正に

より懲戒処分された職員を同一フロアへ異動させたことなど、市が諮問した公正職務審査会は答申において不適切だったと断定しました。

## 遺族が市に 民事訴訟

市は公益通報以前の問題にも踏み込んで、何故このような事件が起こったのか真相解明に取り組む必要があると考えます。

6月12日に遺族が市を相手取り民事訴訟に踏み切りましたが、遺族に対し真摯(しんし)に対応することはもちろん、同和行政による市政のゆがみに向き合うべきです。

市長…本市において、これ以上の調査を行っても新たな事実に至るのは難しい。ご遺族が提訴されたところであり、訴状が届き次第、内容を精査し、真摯に向き合い対応してまいります。

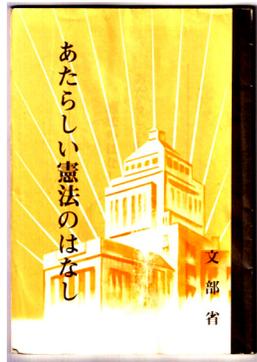
寄稿

# 幼少時の回想

和歌山市 辻本義彦 85歳

太平洋戦争が終結以来八十年、戦時中は小生五歳で母の実家現在の紀の川市に疎開、空襲警報がなるたびに防空壕に駆け込み避難したことを今も鮮明に覚えています。田舎の農夫が作業中低空飛行のグラマン戦闘機に機銃掃射を受けて素早く小川に架かる石橋の下に逃げ込み命拾いをした様子を目撃したこと、そして疎開先の西の夜空が赤く燃え上がっている場面など、後に海南市の燃料会社がB29

戦闘爆撃機に爆弾を投下され燃えていると、祖父母が教えてくれました。幼い頃の怖い思い出、戦争は二度と起こしてはならないと思います。日本国平和憲法は今後も護る必要があります、憲法九条は改定してはならないと思います。平和外交の充実が最も重要です。



1947年8月、文部省によって発行された中学1年生の教科書

ご本人の許可を得て掲載させて頂いています。

## 反戦 俳句

山下多喜子 市小路在住

飽食を詫びて存ながらふ敗戦日

平成26年9月15日読売新聞俳壇次席

敗戦日父の涙は一度きり

平成21年NHK全国俳句大会 秀作

箱形のラジオ八月十五日

第六十五集紀伊山脈刊行記念

俳句大会入選句



# 津波の

## 警報によせて

7月30日、突然、津波の避難が呼びかけられました。知人から「高齢で介護を受けている。一人で逃げられない」と連絡が入りました。高齢者の避難について市は、毎年八月に、在宅で要介護3以上や重度障害者の方々を対象に、避難行動要支援者の支援体制を整備する個別避難計画作成の意向確認を実施しています。しかし、意向確認ができていないのは対象者の約10%のことでした。

相談者の避難先は第1次避難場所の小学校であり、行くことは簡単ではありません。避難する余裕がない時は屋外避難所や一定の安全を確保できる避難施設へと市の地域防災計画では、なっています。急な避難に備え、日頃から災害別による避難先を決め家族で話し合っておくなど、改めてその必要性を感じた日でした。

# 中澤さんのエコバッグ

中澤内知子さんは、不要になった傘布をエコバッグにリサイクルする取り組みをしています。傘の布は雨にぬれても中身は大丈夫で人気が高まっています。新婦人の班が誕生しており、能登の被災地にも届けるなど地道に活動をしています。市からも見学に来ており、今後もっと広がっていくのではないかと期待しています。



メンバーと一緒に作成したエコバッグ(右写真)と作業説明する中澤さん(左)

## 無料生活法律相談

次回：9月12日(金)午後6時～  
会場：河西診療所です。  
相談希望者は南畑さち代まで

## 無料生活相談

日時：毎週木曜日、午前10時～12時  
(電話での相談は常時行っています)  
会場：南畑さち代生活相談所  
TEL. 073-453-3418、453-7758 (自宅)  
和歌山市善明寺411-4

相談実施中は看板を出しています。  
お問い合わせは、南畑さち代まで。  
TEL. 073-435-1113 (日本共産党市議団室直通)

2025年3～7月の法律・生活相談件数  
生活保護関連9件、医療7件、道路4件、保育1件、介護4件、保健2件、動物2件、物価高騰1件、防災1件、災害1件、耐震1件、空き家1件、住宅1件、法律1件、障害：1件、その他3件